

# ゆきの灯り

第23号  
平成30(2018)年  
11月発行  
油木協働支援センター  
TEL 82-0701  
FAX 82-2228



3日目のワークショップでは地域の人から「地域づくりに本気にならないといけない」とか「人口減などで不の部分が大きい油木だったが、なんとかいけそうなのがする」とか、里山ウェーブをきっかけに住民の方々の力強い声が聴こえてきました。

東京の参加者の皆さんが地域の心にある灯りを再び灯して下さったように思います。たくさんつながりが出来、またユニークなアイデアが生まれました。

今回の事業を一過性のイベントにするのはもったいない。一つずつ整理しながらこれからのセンターの事業に活かしていこうと思っていま

す。参加者の皆さんは油木で見聞きしたことをもとに、これから東京において活動プランを作成されます。どんなプランが出来上がるか楽しみです。里山ウェーブにご協力いただいた皆さんありがとうございました。



しし鍋、こんにゃく 地元FOODを囲む交流

## 都市コーディネーター 橋本 雄太

10月26日〜28日、東京から4名の若者とともに油木を訪れました。「なぜ、わざわざ東京から若者が？」そう思われた方は、若者と会った人たちに聞いてみてください。そして、その時に感じて欲しいです。「こいつは以前と何か変わったぞ」と。私はその目の前にいる人たちが変わっていく瞬間を見ました。「町の未来を考えてもわしは何もわかん」と言っていた人が「わしはこの町に光を創りたい」と訴えていました。心の底からふつふつと沸き上がる熱を感じ、賛同した若者たちは光を創るためにどうすればいいのかを一生懸命に実践しようとしています。つい最近まで何の関わりもなかった若者が本気でやっています。これが里山ウェーブです

## 「ひろしま里山ウェーブに向けた神石高原中学校の取り組み」

皆さん、こんにちわ。地域おこし協力隊の伊藤博暁です。前号の高畑さんに引き続き、神石高原中学校での活動を紹介します。10月16日の授業では、10年後の自分を想像した上で、各班で「こんな町にしたい」を作ってもらいました。その後、3人の有志の生徒が、模造紙を4枚も貼り合わせた下絵の製作と全体のテーマ設定を手伝ってくれました。決まったテーマは「活気のある町」「暮らしやすい町」「自然を活かした町」の3つ。

10月23日に各チームに沿った絵を描き、下絵に貼って、神石高原町の未来図が完成しました。生徒それぞれの想いが詰まった未来の神石高原町は、みんなにとって便利で魅力的な町になったのでしょうか？東京から来る若者たちにとって映るのか、今から楽しみですね。

## 未来図が出来上がってきました



「里山ウェーブってなんか楽しい」という声も♪♪

10月23日に各チームに沿った絵を描き、下絵に貼って、神石高原町の未来図が完成しました。生徒それぞれの想いが詰まった未来の神石高原町は、みんなにとって便利で魅力的な町になったのでしょうか？東京から来る若者たちにとって映るのか、今から楽しみですね。



生徒を見守る伊藤さん

「都会と田舎の協働大作戦」のテーマのもと、5名の参加者、加藤せい子メンター、県の職員の方々、事務局であるジャパン総研の方々が油木に集結。2泊3日の盛りだくさんの予定を積極的に体験されました。



油木高校生の案内での散策

里山ウェーブ参加者への祈願の舞ありがとうございました。



辛うじてごめんの販売戦略を考えています



参加者と橋本さん(左端)

## ワッショイワッショイ

油木亀鶴山八幡神社秋季大祭において今年もギャル(女性)神輿を出すことが出来ました。今年は民泊で来られた京都光華女子短大の皆さんにも神輿を担いでもらい、賑やかで華やかな祭りとなりました。

伝統を尊重し、継承していくとともに、新たな取り組みも少しずつ導入していくことがこれからの油木には必要なのかもしれません。ご協力いただいたギャルの皆さんありがとうございました。



ギャル(女性)みこしの皆さん



光華女子短大の皆さん

10月7日、広島市の神石高原町友会の皆さんが「ふるさと再発見・日帰りの旅」で油木へお越しになりました。亀鶴山八幡神社の大祭の見学、油木の町並み散策、その後油木高校を訪問され、ナマズプロジェクトや油木高校の魅力化についての話を聞かれました。センターでは、昨年度からの油木協働支援センターの取り組みを説明しました。多くの質問、意見をいただき、活発な意見交換会となりました。神石高原町の出身者の方々に関係人口として、共に油木を盛り立てていただきたいの思いを伝えました。



油木協働支援センターの前で記念写真





**広島大学  
学長表敬訪問**

10月15日「西川化石魅力プロジェクト」の関係で広島大学の越智学長を入江町長、赤木センター長、来年4月から地域おこし協力隊として当該プロジェクトに関わっていただく広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学科修士課程2年生の尾森さんが表敬訪問をしました。



左から赤木センター長、越智広島大学学長、入江町長、尾森さん

**10月の専門部会**

**地域子育て世帯**

**支援事業専門部会**

平成29年4月から協議を続けてきた当部会ですが、10月6日を以て区切りをつけることになりました。制限渡会や子育て世帯へのアンケート、行政との意見交換会など多くのことを行いました。

今後は協議の中で出た意見をもとに、行政や保育所、小学校と連携を図り、子育てしやすい油木の町を目指していきたいと思います。

**見る来る住む Miraiyu**

油木地区への移住者及び移住希望者が生活に関する情報を得られるようなホームページを作り、運営していく予定です。現在事業計画を策定委員で作成しています。

**体験・交流推進事業専門部会  
部会長 高原 敬二**

10月19日小野南郷にある再生された古民家（体験型農家民泊）で体験・交流部会のキックオフミーティングを行いました。写真は、向かって右から当該民泊に最初の宿泊者として宿泊された（株）日本総研研究所調査主席研究員の藻谷浩介氏、サセットビューイングでフルートを奏でてくれた神石高原中学校3年生の前原唯さん、久保事務局長、そして私。残念ながら町長、センター長は出張で参加できませんでした。



藻谷さんと記念撮影！

**里山と夕日  
荘厳な雰囲気でした**



**実行委員長の挨拶**



**200本の大根を販売中**



**ピンクの馬の登場！**



10月21日（日）快晴の中、ゆきふるさとまつりが開催され、たくさんの方にお越しいただきました。

**2018 ゆきふるさとまつり**



お楽しみ抽選会を待ってます



3団体共演のよさこい踊り

**自治振興会より**

源流の里しんさかでは、10月8日（月）に新坂わくわく大収穫祭を開催しました。「内海町の将来を考える会」との交流会でもある当行事には37名の方が参加され、芋掘りやしめ縄づくりを行いました。



しめ縄づくり

12月のゆきキッズクラブ料理教室 1日（土）そば打ち教室 8日（土）

**各地の**

**敬老会  
です♪**



10月14日 源流の里しんさか



10月13日 油木地域



10月28日 安田自治振興会

**ゆきの灯り人**

No.1（不定期）

10月24日 東京で開催された第58回「食品衛生指導員全国大会」に源流の里しんさかの今井ゆきみさんが中四国代表として参加され、指導員活動の発表をされました。今井さんは昨年度広島県食品衛生大会において最優秀賞を受賞されています。



「全国から参加されている方々の話を聞いて、非常に勉強になった。大会で得た知識を地域に還元していきたい」と思いを新たにされた今井さんでした。

**小野自治振興会の活動について その二  
会長 前原孝史**

**(4) 「小野の将来を考える会」の活動**

任意の組織として小野の将来を考える会があります。小野への定住人口を増やすことを第一目標にして、毎月1回の定例会を行っています。この9月で47回を数えます。主催行事として、4月の「おいしい山菜を食べる会」、7月の「川遊びと夏野菜カレーの会」、11月の「おいしい新米を食べる会」を行っています。都市との交流行事です。福山方面から毎回20人前後の参加があります。また、この2月には「奥様ご招待食事会」を実施し、大変好評をいただきました。

長に直接要望活動を行っています。この7月には7月豪雨災害についての要望書を提出しました。

この要望活動は民主主義の原点としてとらえています。そもそも政策の原点は住民要望をいかに具体化していくかにあります。

**(6) 防災対策**

小野自主防災会では小野地域防災計画を策定しており、大地震や風水害などの場合には役割分担して、住民の命の安全を第一に考えて行動することとしています。7月豪雨災害の際は避難所を開設したり、ページング放送で道路情報を知らせるなどの活動をしました。

避難所となる小野社会教育施設には情報を受発信する設備として、テレビ、電話、Wi-Fiを設備しています。

防災用備品は、宝くじ助成事業を受けて、担架、発電機、投光器、ライフジャケット、救助ロープ、簡易段ボールベッドなどが有ります。